

キンメダイの種苗生産に向けた親魚養成技術の確立

(平成 26～27 年度)

担当：水産技術研究所伊豆分場

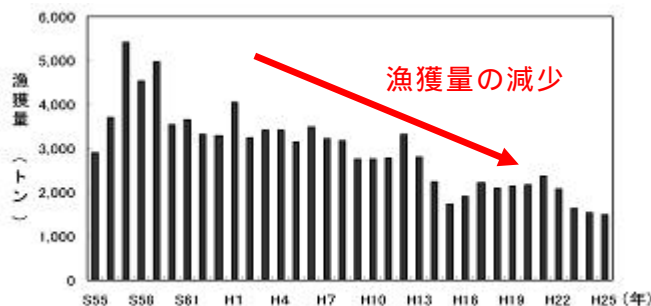
【研究の背景とねらい】

キンメダイは漁獲対象とする漁業者の数は多く、その水揚げ金額は 26 億円に達し、伊豆地域を代表する魚となっています。また、観光資源としての役割も大きい魚です。しかし、昭和 50 年代に 5 千トン近くあった水揚げ量は、近年では 2 千トン程度まで減少し、その資源量は減少していると判断されています。県では資源状況、経済効果及び漁業者からの強い要望から、第 7 次栽培漁業基本計画（期間：平成 27～33 年度）で、キンメダイを新規で研究対象魚種に採用し、栽培漁業の研究に取り組むことになりました。しかし、これまで養成した親魚からの採卵に成功した例はありません。本研究では、キンメダイ資源回復のため、種苗放流実施に向けた研究の第 1 段階として、親魚養成技術の確立を目指します。

【これまでに得られた成果】

(平成 26 年度の成果)

- ・平成 27 年 2 月から 3 月に 3 回、伊豆漁協稲取支所の立縄船により、キンメダイ 77 尾を捕獲し、伊豆分場に移送しました。
- ・捕獲したキンメダイは移送中死ぬこともなく、無事伊豆分場の飼育池に収容できました。飼育密度等の飼育条件を検討していきます。



底立て延縄漁による漁獲量の推移



飼育中のキンメダイ

【期待される成果】

現在行われている資源管理型漁業に加え、栽培漁業による積極的な資源増大を図ることによって、キンメダイの資源量が回復し、将来にわたって安定的に漁業を営むことが可能となります。

【今後の計画】

親魚を養成するうえでの適正水温、餌料、飼育方法等を調べ、飼育魚からの採卵を目指します。また、成熟期に漁獲した親魚にホルモン処理を施し、短期間の養成で良質卵を得るための条件を検討します。これらの成果を、種苗生産、種苗放流技術の開発につなげていきます。